

とやま県プラ



富山県プラスチック工業会

2023.1 No.50



CONTENTS

- 2 会長メッセージ
- 3 下期理事会
- 4 シリーズ プラスチック業界：提言
- 5 総務委員会レポート
- 6 技術委員会レポート
- 9 会員広場
- 10 会報No50号記念特集
- 12 各種技能検定
- 13 会員企業による景況調査
- 15 プラスチック関連データ
- 16 共創



新年に寄せて

富山県プラスチック工業会

会長 中西 誠



新年あけましておめでとう御座います。

会員企業並びに関係企業、諸団体様に於かれましては穏やかな新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

又、日頃より富山県プラスチック工業会に対してご理解とご支援を心から厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと・・・

大変うれしいことでありました。11月の秋の叙勲にて副会長の高田順一様が永年の功績が認められ、旭日小綬章を受章されました。当会にとっても大変名誉であり心からお祝い申し上げます。

さて経済環境はいかがでしたでしょうか、激動の年ではなかったでしょうか。世界に目を向けますと、想定外の数々の激変に、不安な日々を過ごす1年となりました。新型コロナウイルス感染拡大から回復をみせつつあった世界経済は、ロシアのウクライナ侵攻という事態に直面し、大きなダメージを受けました。原材料の高騰、物流の遮断・混乱、各国で進むインフレとその対策としての金利の引き上げ、世界経済をけん引してきた中国の景気減速懸念、回復から減退へ逆回転する世界経済でした。日本の経済は、ウクライナ危機による資源高、米国の金融引締めによる円安・ドル高急進、中国のゼロコロナ政策によるサプライチェーンの混乱、変異株拡大の中での経済活動との両立を取組んで参りました。先行きを展望すると個人消費の回復に牽引される形で、景気は持ち直しの動きが消費の回復に見られるが、エネルギー・原材料の価格上昇や円安など景気下振れのリスクは残ったままではないでしょうか。

プラスチック業界においては、持続可能な社会の実現に向けて・・・

「プラスチックに係る資源循環の促進に関する

法律」が施行されました。製品設計から廃棄処理までの循環について 3R（リデュース・リユース・リサイクル）リニューアブルが要求されています。これに応じていくことが、私たちの使命であります。

来る2023年はどのような1年でしょうか？多くの経済エコノミストは世界と日本の経済とも厳しいとみているようです。ウクライナとロシアの戦争終結が見えないなか、エネルギー問題と物価高騰インフレ、物流の遮断・混乱・サプライチェーン分断や急激な為替変動や新型コロナウイルス感染拡大のリスクと経済の回復までにはまだ時間を要すると言われています。新型コロナウイルス感染を抑えながら、低成長、非連続、高速化するニューノーマルな新しい働き方が求められています。このような時代の大変革期にあたり、当会では経営及び人材育成、技術力、技能向上の課題に向けて、微力ではありますが、会員の皆様と力をあわせて経営課題解決へ向け取組み、お役に立てますよう尽力して参ります。

2023年の干支は、「癸卯（みずのと う）」です。まず十干の「癸」とは「揆（はかる）」につながり、十二支の「卯（う）」とは、もちろん「うさぎ」ですが、他に「芽や葉がしげる」という意味があるとの事です。組み合わせると「筋道を立てて処理してゆけば繁栄するが、筋道を誤るとこんがらがって混乱する」だそうです。課題の本質をつかみ問題解決に向けて、協力しつつ新しい時代を切り開いていく年になることが要望されます。

会員企業の皆様には、今年も引き続き当会の活動にご協力を賜りますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

●下期理事会

2022年度下期理事会が開催され、「上期事業報告の件、上期収支報告の件、下期事業計画の件、会員の加入並びに退会の件、インボイス制度対応の件」5議案について審議され、いずれも承認されました。又、以下の内容について報告されました。

- ・2022年度富山県ものづくり団体合同新賀詞交歓会の開催について
- ・押出成形社内認定制度の状況報告
- ・射出成形技能検定（実技試験）の受験数について

日 時：2022年10月25日（火） 10：30～11：20

場 所：富山電気ビルディング 5階「中ホール」

出席者：役員19名 総務委員長・技術委員長・事務局



下期理事会

●2022年度 中部地区業界団体懇談会

幹事県でもある富山県プラスチック工業会の中西会長よりの開会挨拶にて、プラスチック業界を取巻く厳しい経営環境や環境要件「資源循環型社会への取組み」等、難題が多くあります。各団体の取組み・課題等について意見交換を通して、更なる連携を深めて行ければと挨拶をされました。各団体の役員方々と、有意義な意見交換・親睦を深めることが出来ました。

日 時：2022年10月25日（火） 13：00～18：30

出席団体：中部日本プラスチック製品工業協会

岐阜県プラスチック工業組合

石川県成型加工工業協同組合

幹 事 県：富山県プラスチック工業会 15名

内 容：1. 視察

- ・富山県産業技術開発センター

2. Web講演

- ・講師：合同会社サカタ経営 代表社員 坂田 卓也 氏
- ・演題：「中堅中小企業の脱炭素への取組みについて」

3. 懇談会

- ・各団体の取組み・課題及び、資源循環型社会への取組み

4. 懇親会の開催



懇談会



視察



web講演



懇親会

資源循環社会形成に向けプラスチック業界に求められる役割と戦略の方向性



株式会社三井住友銀行 富山法人営業部
設楽 侑暉氏

1. 脱炭素化の潮流

温室効果ガス (GHG) の排出による気温等の上昇と、それによる異常気象・自然災害の増加は世界的な課題である。2021年秋にはCOP26 (第26回気候変動枠組条約締結国会議) が開催され、各国が脱炭素戦略を策定・実行するフェーズに移行した。中でも、排出削減目標を15%引き上げる“Fit for 55”の採択や、EUタクソミー (「持続可能な経済活動」の体系化) を進める欧州の取組が先行。世界最大の炭素排出量を誇る中国は、2060年までのカーボンニュートラル目標を掲げ、太陽光・風力発電の急拡大による炭素削減策を押し進めている。

一方日本は、「2030年のGHG排出量を2013年比46%削減する (2021年4月)」「2050年迄にGHG排出量実質ゼロを目指す (2020年12月)」方針を発表。実現には使用エネルギーの電化が不可欠であるが、それは同時に電力需要が現状比+30~50%増加することを意味し、再エネ依存の加速や原子力政策の方向性が課題となっている。岸田政権では政策の柱の一つに「クリーンエネルギー戦略」を掲げ、2022年には「カーボンプライシング」の導入検討が本格化し、炭素税ないしは排出量取引制度の導入も検討が進んでいる。

このような世界的潮流を受け、投資家の目線の一つにESGが定着。企業への株式市場からの圧力は年々強まり、日系各社はカーボンニュートラル宣言、TCFDへの参加等による環境への取組強化と市場への打ち出しを積極的に行っている。

2. 資源循環社会におけるプラスチック産業の役割と戦略の方向性

鉄鋼業界に次ぐCO₂排出量水準である化学業界の

脱炭素施策は、主に①熱源転換、②原料転換、③原料循環である。特に原料循環の実現に向け、環境省は「2035年までに使用済プラスチックを100%有効利用する」目標を掲げている。

プラスチックリサイクルの手法である①エネルギーリカバリー (ER)、②ケミカルリサイクル (CR)、③マテリアルリサイクル (MR) の内、CO₂排出削減の効果が小さいERが廃プラスチックリサイクルの6割を占めているのが現状だ。資源循環社会の形成に不可欠なMR及びCRの普及に向け、廃プラ収集体制の構築や、分別・粉碎・洗浄等の技術確立、リサイクルコストを社会全体で負担する仕組み作り等に取り組む必要がある。

足許では、プラスチック資源循環促進法 (2022年4月施行) により、使用済プラ製品を独自に自主回収・再資源化する事が可能となり、今後、リサイクルの容易な廃プラの囲い込みに向けた提携が加速するだろう。また、消費財メーカーに続き家電・完成車メーカーが資源再利用目標を公表する等、プラスチック資源循環社会の形成は、Scope3 (自社活動/Scope1と電力調達/Scope2以外の、事業者の活動に関連する他社の排出) の削減という点で最終製品メーカーにとっても不可欠である。

カーボンニュートラル達成に向けてプラスチックメーカーに求められるのは、まず現状認識・把握を行い、そこから策定・打ち出した戦略を遂行するアプローチである。そして、得意分野における知見・情報の共有等を行いつつ、地域における資源循環社会形成に向けた、業界の垣根を超えた連携へ繋げていくことだ。他社に先駆けて資源循環に取り組むことが、自社の差別化に繋がる可能性を秘めている。

※本稿は、2022年5月に実施した記念講演の内容を要約したものです。

人と技術を結ぶパートナー



金森産業株式会社

本社 〒933-8558 高岡市昭和町1-4-1
TEL (0766) 25-0123 (代) FAX (0766) 26-5663
支店・営業所 東京・大阪・富山・金沢・福井
<http://www.kanamorisangyo.co.jp/>

営業品目

熱硬化性樹脂成形材料
熱可塑性樹脂成形材料
各種成形機、合理化機器



黒田化学産業株式会社

本社 〒930-0069 富山市旅籠町4番2号
TEL (076) 424-3291
新潟営業所 〒959-1288 新潟県燕市燕1233-4
TEL (0256) 62-5105

青年部会

●第1回青年部会研修会（経営研修）

阪神化成グループにおけるSDGsの取組みについて、企業事業への影響や重要性そして、取組むための方法・紹介大変に分かり易く説明されました。SDGsの取組みが企業の必須要件となる時代であると痛感しました。

日 時：2022年7月28日（木） 14：00～15：00

場 所：富山技術交流センター 2階 大研修室

演 題：「阪神グループ SDGsへの取組み」

講 師：阪神化成工業(株)グループ総括本部 部長 上田 祐輔 氏

参加者：8社11名



研修風景

★受講感想 ㈱リッチェル 岩井 徹哉

推進チームを立ち上げて活動されるなど、阪神グループ様のSDGsへの取り組み姿勢が良く理解できました。SDGsのポイントについてわかりやすい解説もあり、これまで漠然としていたSDGsへのアプローチについて、考え方を見直す良いきっかけとなりました。また、会社として将来のあるべき姿を明確にし、未来を起点に逆算する「バックキャストイング」や世界的・社会的視点から目標設定する「アウトサイドイン」等、手法について知見を深める事ができました。

●第2回青年部会研修会（異業種優良企業視察研修）

視察先の若鶴酒造(株) 三郎丸蒸留所は、1952年の製造開始以来連綿と受け継がれた製造・材料を生かして、今も昔も変わらぬウイスキーへの「こだわり」、「情熱」を持って取り組まれている企業です。大変貴重な視察となりました。

日 時：2022年9月13日（火） 15：00～16：00

視察先：若鶴酒造(株) 三郎丸蒸留所

参加者：7社8名



三郎丸蒸留所

★受講感想 ㈱リッチェル 柝原 央

自分自身お酒を飲むことが大好きですし、若鶴酒造様についてはニュースなどでクラウドファンディング・高岡銅器の技術を用いた銅製醸造蒸留器の話は聞いていたので、今回の視察は非常に楽しみにしていました。実際に工場内を見て回り、戦後から続く長いウイスキー作りの歴史を肌で感じる事ができたのは貴重な体験でしたし、業種は違えどモノづくりへの強いこだわりと情熱が大変参考になりました。

労務研修会

●労務研修会Ⅱ

今回の研修会では、育児・介護休業法の改正対応の研修説明です。労務管理担当者においては、実務運用（説明）・申請手続き等、スムーズな対応が必須です。今後の対応すべき業務を分かり易く説明をいただき、非常に参考となる内容でした。

日 時：2022年9月7日（水） 14：00～15：30

場 所：富山技術交流センター 2階 大研修室

演 題：「待ったなし！育児・介護休業法の改正対応」

講 師：社会保険労務士法人 片境事務所 代表社員 片境 一暁 氏

参加者：11社13名



研修風景

★受講感想 富山カラーリング(株) 出口 秀夫

今回は、「育児・介護休業法」の改正について受講させて頂きました。育児休業を取得しやすい雇用環境を整備することは、企業の使命だけでなく、社会の要請でもあります。少子高齢化が社会の課題となる中で、よりよく運用できることが必要です。諸制度が度々改正されていることは、実情の変化が激しい事と世間の注目が集まっているためでしょう。今後もコンプライアンスを厳守し、企業と個人がコミュニケーションを取れる信頼される対応をしたいと感じました。

研修講習事業

■後期レベルアップ研修会

日 時：2022年10月4日（火）～7日（金）
9：00～16：00

場 所：ポリテクセンター富山

参加者：10名

プラスチック成形技術高度化セミナー

●プラスチック成形高度化セミナーⅠ

射出成形において、直行率100%成形を実現するための射出成形技術構築の要点について講義をいただきました。樹脂特性や金型構造を基礎とした不良の未然防止のための成形技術は、現場成形加工の重要事項でもあり、大変有意義な講義となりました。



セミナー風景

日 時：2022年8月25日(木) 10：30～16：30
場 所：富山技術交流センター 2階 研修室
演 題：「射出成形不良の未然防止の為に成形技術」
講 師：高野技術士事務所 所長 高野 菊雄 氏
参加者：9社23名 ※25名までの人数制限にて案内

★受講感想 (株)タカギセイコー 室崎 智裕

本セミナーでは射出成形における様々な不良事象やその原因・対策・注意すべきことについて学びました。その中で成形不良は製品形状や金型構造・精度で大体潰し込めること、また不良発生時には現場・現物・現状で状況を把握し、原理・原則に従い原因を特定していく5ゲン主義が最も重要であることが理解できました。不良という必ず直面する問題について技術的な知識を得ることができるセミナーであり、大変良い機会となりました。

●プラスチック成形高度化セミナーⅡ

今年度は、定員オーバーとなる大変好評なセミナーとなりました。プラスチック製品設計の基本となる3本柱(樹脂特性・金型構造・成形加工)の基礎知識や製品設計に関する不良要因を分かり易く説明されました。そして、2022年10月度にドイツで開催された、国際プラスチック博覧会での最新見本や技術情報の紹介もあり、大変有意義な講義となりました。



セミナー風景

日 時：2022年11月28日(月) 10：00～16：00
場 所：富山技術交流センター 2階 研修室
演 題：「プラスチック製品設計の基礎」
講 師：伊藤英樹技術士事務所 所長 伊藤 英樹 氏
参加者：9社24名 ※25名までの人数制限にて案内

★受講感想 三晶MEC(株) 坂井 克有

成形技術の向上、工程設計の知識向上を目的とし、受講させて頂きました。

本講義において、内容を細かく説明して頂き、とても解りやすく理解度を深めることが出来ました。サーキュラーエコノミーへの移行についても、国際プラスチック博覧会で出展されているサンプルを見させて頂きとても興味がわきました。『感・伝・変』モノ作りに欠かせない要素。感度を良くするために今後も色々な知識・経験をつみ、仕事で得られた情報・結果を周りの人にきちんと伝え、会社全体で良いモノ作りをしていきたいと思います。この様な機会を頂き本当にありがとうございました。また機会があれば参加させて頂きたいと思います。



ISO9001:2015 認証取得
ISO14001:2015 認証取得

高陵プラスチック工業株式会社

〒933-0824 高岡市西藤平蔵字内川原1312
TEL(0766) 63-5656(代)
FAX(0766) 63-5658

インサート成形のパイオニア



車載用製品・民生用製品・産業用製品
鳥除け用樹脂器具・医療教材

〒930-0304 富山県中新川郡上市町森尻5
TEL(076)473-3251 FAX(076)473-2692



第16回 技術開発・改善事例発表会&講演会

第1部は、技術開発事例：2件、改善事例：1件と合計3件の貴重な発表となりました。長年に積み重ねてきた技術開発案件や不良削減改善事例は、技術開発力や改善能力が伺える非常に高いレベルの発表でした。第2部は、バイオプラスチックの基本（概念）からの取組そして、可能性を期待させられる内容でした。今後の「脱炭素」・「環境対策」に向けて、大変参考となる講演でした。

日 時：2022年11月16日（水） 14：00～16：45

場 所：富山産業展示館（テクノホール）東館 2F 大会議室

参加者：17社43名 ※技術委員、発表者、アシスタント含む60名

第1部 技術開発・改善事例発表会（14：00～15：15）

発表1. 丸和ケミカル株式会社 木田 博久

テーマ：シリコン樹脂のすべり止め素材としての活用

発表2. 株式会社トヨックス 瀧本 伸二

テーマ：高性能素材分野における、知財の活用事例について

発表3. 三協化成株式会社 宮脇 大祐・山本 高広

テーマ：網戸車用射出成形部品の不具合削減

第2部 講演会（15：15～16：45）

講 師：環境・バイオ・プラスチックリサーチ 代表 位地 正年 氏

演 題：「プラスチックのリサイクルやバイオマス利用による環境対策の動向と今後の展望」

★受講感想 (株)トヨックス 金井 克雅

今回の改善事例発表の発表1では新商品開発に対する取り組みの進め方について具体的な事例を基に発表され非常に興味深い内容でとても参考になりました。発表2では、商品力強化の為の知的財産戦略の重要性について過去の取り組みを基に知的財産権の活用がどうあるべきなのかについて皆さんが理解しやすい内容で今後の活動に参考にしてもらえと思いました。発表3では、業務上の課題解決についてQC活動の仕組みがしっかり出来ているのが発表を聞いていると伝わってきました。本当に素晴らしい活動をされています。講演会ではまさにプラスチック製造に携わる企業が今直面している環境問題について考えなくてはいけない内容で皆さんへの問題提起になったと感じました。今回の発表会・講演会は発表内容がいろんな側面からとらえた発表で大変素晴らしい内容でした。



石崎副会長 開会の挨拶



発表会の様子



発表された皆様



講演会の様子

押出成形ラボ

樹脂押出成形のいかなる問題にお応えする問題解決型サイト
URL：<https://oshidashiseikei-lab.com/>

 **三協化成株式会社**

本社・工場/高岡市福岡町下向田3-1 TEL(0766) 64-4000(代)

自由な風土の小規模技術集団

 **三晶MEC株式会社**

〒936-0861 滑川市中新1029-1
TEL 475-7195(代)
FAX 475-2924
<http://www.sanshogiken.co.jp>

押出成形関連

○試作会…生産設備及び製品仕様の確認

日 時：2022年7月26日(火) 13:30~15:00
場 所：(株)トヨックス 北工場
出席者：2社6名



技能講習(実技)

○運営委員会

日 時：2022年8月9日(火) 14:00~15:30
場 所：富山技術交流センター 3F 会議室
出席者：4社7名



技能講習(学科)

○技能講習(実技)…検定に向けての実技講習

日 時：2022年10月4日(火)~6日(木) 9:00~16:30
場 所：(株)トヨックス 北工場
受講者：1級3名・2級4名



社内検定(実技)

○技能講習(学科)…専門・共通知識の学科講習

日 時：2022年10月15日(土) 9:30~15:30
場 所：富山県総合情報センター 2階 第8会議室
受講者：1級2名・2級8名



社内検定(学科)

○社内検定(実技)

日 時：2022年10月18日(火)~26日(水) 9:00~16:30
場 所：(株)トヨックス 北工場
受検者：1級3名・2級4名

○社内検定(学科)

日 時：2022年11月19日(土) 10:00~11:30
場 所：富山県総合情報センター 2階 第8会議室
受検者：1級2名・2級8名



認定式

○認定式

日 時：2022年12月13日(火) 11:00~12:00
場 所：富山技術交流センター 3階 会議室
出席者：3社3名

モノづくりは、人づくり。
大きな夢を育てたい。

戸出化成株式会社

ISO 9001:2015 認証取得
ISO 14001:2015 認証取得

intertek UKAS

本社・工場 富山県高岡市ICパーク12
〒939-1110 TEL 0766-63-5152(代)
FAX 0766-63-5099(代)

NEX-V

新しい時代を牽引する新しい成形機
— IoT対応 新型電気式高性能射出成形機 —

NISSEI 射出成形機・金型・成形支援システム
日精樹脂工業株式会社
http://www.nisseijushi.co.jp

■本社・工場 / 〒389-0693 長野県埴科郡坂城町
南条 2110 Ⅱa.(0268)81-1050

北陸営業所 / 〒939-8211
富山県富山市二口町1-10-5
TEL (076) 425-2638(代)
FAX (076) 425-2639

懇親ボウリング大会

日時：2022年7月23日(土) 9：00～12：00 参加者：36名 (7社9チーム)

場所：クアトロブーム小杉店

昨年同様に1レーン2名体制と新型コロナ対策を実施して懇親ボウリング大会を開催しました。

総務委員・厚生事業担当から大会運営ルール説明があり、試合開始の合図と同時に、熱い戦いとなりました。子供たちの応援や企業からの応援チーム、和気あいあいチーム、そして優勝狙いチームと、いろんな歓声が上がっていました。団体優勝は(株)タカギセイコー「チーム新湊」、個人優勝は「(株)タカギセイコーの前田健児さん」に輝きました。団体賞として、参加した全チームが表彰となりました。詳細な成績は下表の通りです。



団体の部優勝
(株)タカギセイコー チーム新湊

■団体の部(チーム名・企業名)			■個人の部(個人名・企業名)		
優勝	チーム新湊	(株)タカギセイコー	前田 健児	(株)タカギセイコー	
準優勝	タカギ氷見チーム	(株)タカギセイコー	高田 正彦	(株)タカギセイコー	
3位	TEAM S	(株)タカギセイコー	紙屋 安久	(株)タカギセイコー	

懇親ゴルフコンペ

日時：2022年10月1日(土) 7：00～

参加者：31名

場所：八尾カントリークラブ

幹事：阪神化成工業(株)

秋晴れで絶好のゴルフ日和となりました。八尾カントリークラブは、JLPGAのステップアップツアーが開催される難コースにて、参加者全員が懇親を深めながらも力の限りコースに挑まれていました。又、怪我等のトラブルも無く無事ホールアウトされました。幹事会社の阪神化成工業(株)様には、コロナ禍の中、準備から賞品授与に至るまで何かとお世話いただき、ありがとうございました。改めまして御礼申し上げます。結果は、下表の通りです。

	企業名	氏名	GROSS	NET
優勝	阪神化成工業(株)	岡峰 一誠	96	68.4
準優勝	(株)リッチェル	麻野 幸作	96	69.6
3位	ミユキ化成(株)	延澤 泰明	104	71.6
ベストスコア賞	(株)リッチェル	蓮池 浩二	84	76.8



参加者の皆様



延澤副会長と優勝者の岡峰さん

慶事

旭日小授章 (秋の叙勲)

阪神化成工業株式会社

代表取締役会長 高田 順一 氏

(富山県プラスチック工業会 副会長)



ファインプラス株式会社

Fineplas Limited









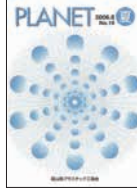







北酸株式会社

代表取締役社長 山口 昌広

本社 〒930-0029 富山市本町11番5号
TEL (076) 441-2461 FAX (076) 441-2358
URL: <http://www.hokusan.co.jp>

特集

会報発刊第50号の歩み

発刊	会報経緯・内容	歴代会長・特記
第1号	<p>平成8年9月25日（1996年）</p> <p>◆「プラネット」創刊 多数の公募より会報名を決定しました。「プラスチック」と「ネットワーク」の合成語で、工業会（プラスチック）の会報を通じて、情報交流や相互の理解を深めることを意図としています。</p> <p>◆「とつげき隊」 創刊にあたり、「とつげき隊」と名付けて会員企業トップの方々にインタビューを行った。</p>	<p>(株)リッチェル 渡辺信安 (1983～2004:22年間) (会報:創刊～16号)</p>  
第8号	<p>平成13年4月20日（2001年）</p> <p>◆「創立40周年」 創立40周年にて特集を掲載した。プラスチック業界や社会の流れそして、工業会の歩みの起点となる内容を記載する。</p>	 <p>特集:創立40周年</p>
第18号	<p>平成18年3月1日（2006年）</p> <p>◆「共創」 各企業が個性を持ち、連携して強みを発揮していくことを理念として、羽場光明様より「共創」を揮毫していただきました。そして、今もその理念を抱きながら、事務所に掲示しています。</p>	<p>(株)タカギセイコー 羽場光明 (2005～2007.9:2年4ヶ月) (会報:17号～21号)</p>  
第19号	<p>2006.8 夏号（平成18年）</p> <p>◆「PLANET」へと変更 過去から掲載していた、目玉記事や特集内容について、シリーズ化として編集する。又、会報名も新たに「PLANET」と英語表記にて発刊する。</p> <p>◆「共創」記事の編集 共創の理念を基に、会報編集委員からのメッセージを編集する。</p>	 
第22号	<p>2010.1冬号（平成22年）</p> <p>◆「とやま県プラ」へと変更 羽場光明様より、揮毫していただいた「とやま県プラ」を、会報名として新しく発刊する。</p>	<p>(株)タカギセイコー 笠井千秋 (2007.10～2014:7年7ヶ月) (会報:22号～35号)</p> 
第31号	<p>2013.1冬号（平成25年）</p> <p>・平成25年度は、夏・冬合併号として発刊</p> <p>◆「創立50周年」 創立50周年を記念の期に、富山県功労表彰を受賞しました。又、50周年記念誌を発刊する。</p>	  
第38号	<p>2016.8夏号（平成28年）</p> <p>◆会報編集内容 38号:会員企業による景況調査の充実を図る。</p>	<p>阪神化成工業(株) 高田順一 (2015～2018:4年) (会報:36号～43号)</p> 
第43号	<p>2019.1冬号（平成31年/令和元年）</p> <p>◆会報編集内容 43号:会員交流:つどいの場を編集する。</p>	<p>(株)タカギセイコー 八十島清吉 (2019～2021:3年) (会報:44号～48号)</p> 
第45号	<p>2020.1冬号（令和2年）</p> <p>◆会報:全頁をカラー版にて編集する。</p>	<p>(株)トヨックス 中西 誠 (2022～) (会報:49号～)</p> 
第46号	<p>2021.1冬号（令和3年）</p> <p>◆新型コロナ影響 2020年2月頃から新型コロナが全国に急速に蔓延し、県プラ事業が中止となり、夏号を発刊中止とする。</p>	
第49号	<p>2022.8夏号（令和4年）</p> <p>◆ウイズコロナ時代 新型コロナと付き合いながら事業活動を再開する。 ・優良企業視察の見合わせ ・間隔を取って、講演会、セミナーの開催</p>	

会報No.50号発刊を振り返って

県プラ会報は平成8年(1996年)9月に創刊号が発刊されましたが、当時の発刊に関わり、これまで約27年続いて、この度50号という節目を迎えることになりました。



広報紙を作るきっかけは、当時、工業会の専務理事を務めておられました柴野敏一様からの提案でした。会合の雑談の中で、私が会社で社内報を始めたことを聴いておられ、工業会でも情報交流の場として広報誌を発刊したいので力を貸してほしいというお誘いでした。

柴野様から白羽の矢を戴き、早速組織作りに取り掛かり、主要企業の総務担当の女性と工業会の事務担当と私の4名(私が黒一点)で編集委員会が立ち上がり、企画を考えました。

工業会はどんな事をやっていて、会員企業がどんな取り組みをしているのかを会員企業の従業員に広く知っていただく憩いの場であることを念頭に、皆さんに親しまれるような会報名を募集することからスタートしました。132通の応募の中から「ぶらねっと」に決まりました。プラスチック・ネットワークの略で、会報のコンセプトにぴったりのネーミングに工業会の幹部の皆さんも納得された会報名でした。

会報の目玉は「とつげき隊」でした。会員企業のトップに取材を申し入れ普段聞けない話や経営者の趣味なども取り上げ、好評を得ました。幸い、工業会会員企業の経営層の皆さんは仲が良く、いろんな会合の場で「次はあんとこの会社を紹介しられよ」と道筋を立てていただいたこともしばしばあり、助かったことを思い出します。

以来、50号の発刊までには、会報名の変更、業界動向なども盛り込むなど内容も充実し、今ではホームページの掲載の中でも会報が閲覧できるようになり時代の移り変わりを感じています。多くの方に協力いただいたことに感謝申し上げ、これからも永く工業会の交流の場として続いて行く様に願っております。

会報編集委員長 門前 昌志

「とやま県プラ」特別プレゼントクイズ企画

この度、会報50号の記念を記して、クイズ正解者より10名様に千円相当の商品券等を送り致します。下記応募先まで、FAX又はメールにて送り下さい。当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

<宛先>

富山県プラスチック工業会「とやま県プラ」プレゼント係 行
FAX: 076-442-0310 E-メール: info@kenpla.jp

<応募内容>

- ・氏名
- ・郵便番号、自宅住所
- ・連絡先電話
- ・企業名
- ・会報への感想
- ・クイズ解答

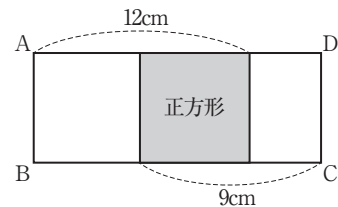
<応募締切>

2023年2月末日迄

1 頭の体操(数学オリンピック)

右図の長方形ABCDの周の長さ(全周)を、下記より正解を選びなさい。

- イ 38cm ロ 42cm ハ 46cm
- ニ 50cm ホ 54cm



2 「県プラ」クイズ

(1) 富山県プラスチック工業会の会報(プラネット)を創刊した曜日についてお答えください。

- イ 月 ロ 火 ハ 水 ニ 木 ホ 金

(2) 会報の創刊時に、会員企業の社長インタビュー記事が紹介されました。

その企画名(表題)についてお答えください。

- イ とつげきインタビュー ロ とつげき隊 ハ ターニングポイント
- ニ トップインタビュー ホ 企業紹介

2022年度 プラスチック成形技能検定合格状況

射出成形(1級)

	年度	受検申請者	学科			実技			技能士	合格率
			受検者	合格者	合格率	受検者	合格者	合格率	合格者	
富山県	平成29年(前期)	34	17	13	76.5%	34	4	11.8%	4	11.8%
	平成30年(前期)	49	20	14	70.0%	47	4	8.5%	4	8.2%
	2019年(前期)	43	24	21	87.5%	42	3	7.1%	3	7.0%
	2021年(前期)	36	15	13	86.7%	36	0	0.0%	0	0.0%
	2022年(前期)	38	10	6	60.0%	38	6	15.8%	6	15.8%
全国	平成29年(前期)	1,627	855	640	74.9%	1,471	366	24.9%	372	22.9%
	平成30年(前期)	1,638	764	593	77.6%	1,490	417	28.0%	443	27.0%
	2019年(前期)	1,570	767	578	75.4%	1,442	384	26.6%	385	24.5%
	2021年(前期)	1,138	597	468	78.4%	999	279	27.9%	282	24.8%
	2022年(前期)	1,114	511	381	74.6%	996	295	29.6%	295	26.5%

射出成形(2級)

	年度	受検申請者	学科			実技			技能士	合格率
			受検者	合格者	合格率	受検者	合格者	合格率	合格者	
富山県	平成29年(前期)	86	67	45	67.2%	74	28	37.8%	32	37.2%
	平成30年(前期)	105	72	45	62.5%	95	32	33.7%	31	29.5%
	2019年(前期)	99	71	52	73.2%	90	19	21.1%	23	23.2%
	2021年(前期)	79	44	25	56.8%	77	17	22.1%	17	21.5%
	2022年(前期)	60	41	24	58.5%	58	8	13.8%	8	13.3%
全国	平成29年(前期)	2,947	2,174	1,474	67.8%	2,403	1,029	42.8%	1,079	36.6%
	平成30年(前期)	3,170	2,107	1,459	69.2%	2,693	1,128	41.9%	1,127	35.6%
	2019年(前期)	3,029	2,058	1,412	68.6%	2,591	1,047	40.4%	1,090	36.0%
	2021年(前期)	2,633	1,833	1,250	68.2%	2,184	860	39.4%	846	32.1%
	2022年(前期)	2,562	1,643	1,067	64.9%	2,109	816	38.7%	775	30.2%

富山県プラスチック工業会認定

押出成形(1級)

	年度	受検申請者	学科			実技			製造者	合格率
			受検者	合格者	合格率	受検者	合格者	合格率	合格者	
富山県 プラスチック 工業会	2018年	7	2	2	50.0%	6	4	66.7%	4	57.1%
	2019年	4	1	1	100.0%	4	2	50.0%	2	50.0%
	2020年	3	3	1	33.3%	1	0	0.0%	1	33.3%
	2021年	5	1	0	0.0%	5	1	20.0%	1	20.0%
	2022年	3	2	0	0.0%	3	3	100.0%	0	0.0%

押出成形(2級)

	年度	受検申請者	学科			実技			製造者	合格率
			受検者	合格者	合格率	受検者	合格者	合格率	合格者	
富山県 プラスチック 工業会	2018年	13	8	4	50.0%	8	4	50.0%	5	38.5%
	2019年	12	8	6	75.0%	10	8	80.0%	7	58.3%
	2020年	9	6	5	83.3%	5	1	20.0%	3	33.3%
	2021年	8	8	1	12.5%	3	2	66.7%	1	12.5%
	2022年	9	8	2	25.0%	4	3	75.0%	2	22.2%

プラスチックとともに



代表取締役社長 **小 菌 雄 治**

丸喜産業株式会社

本社 〒939-1273 富山県高岡市業附5858 TEL0766-36-1464 FAX0766-36-1429
 小杉工場 〒939-0351 富山県射水市戸破針原53-13 TEL0766-56-9789 FAX0766-56-9793
 富山工場 〒939-2732 富山県富山市婦中町横野1371 TEL076-466-6888 FAX076-466-6877
 福岡工場 〒939-0135 富山県高岡市福岡町本領58-1 TEL0766-64-0027 FAX0766-64-0028
 立野工場 〒933-0343 富山県高岡市宝来町85

原料販売
カラーリング加工
リサイクル加工
成形機及び周辺機器販売
各種輸出入取引

緊急用 都市型水害対策商品

環境に優しい手袋 製法特許出願済・食品衛生法適合商品

中国特許取得済み **シリコンコート**

丸和ケミカル株式会社

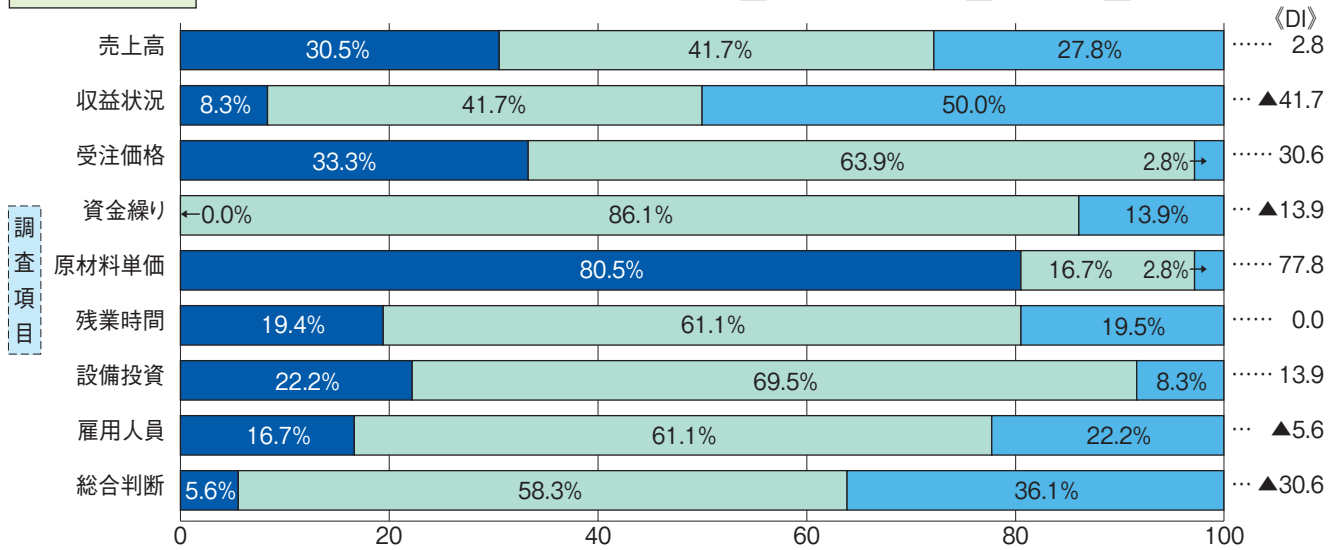
富山県高岡市野村1636番地1 商品の詳細はウェブをご覧ください。
 TEL0766-22-6672 FAX0766-22-2494 丸和ケミカル 検索

(広告は、企業名の50音順に掲載しています)

最近の実績

2022年10月～2022年12月/前年同期比

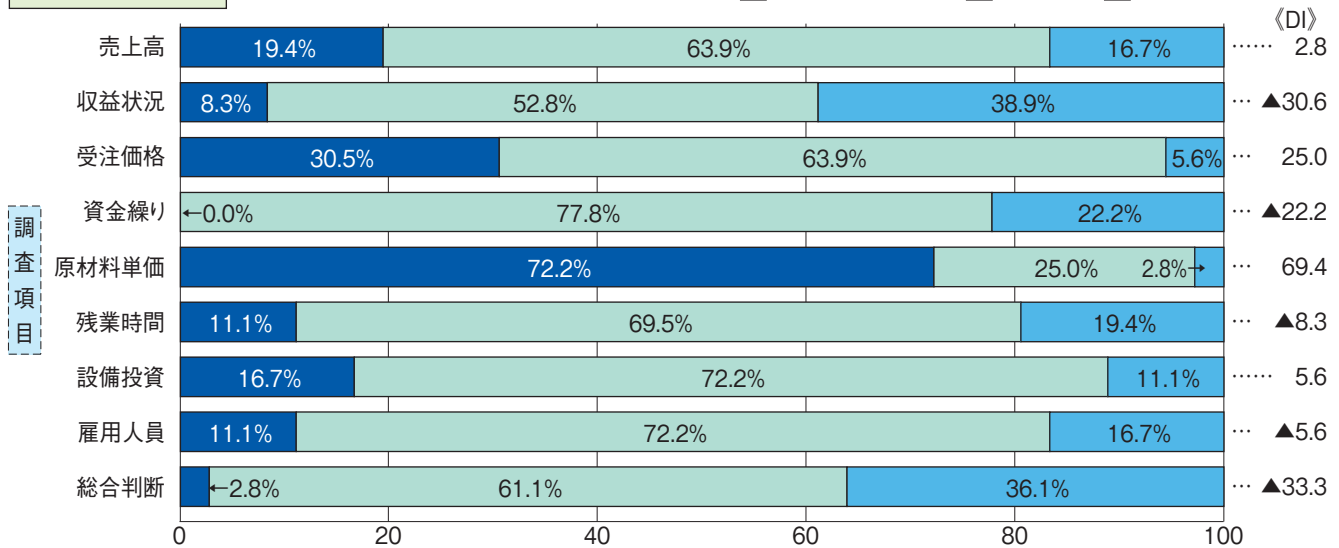
■ 増加・好転・上昇 ■ 変わらず ■ 減少・悪化・低下



今後の見込み

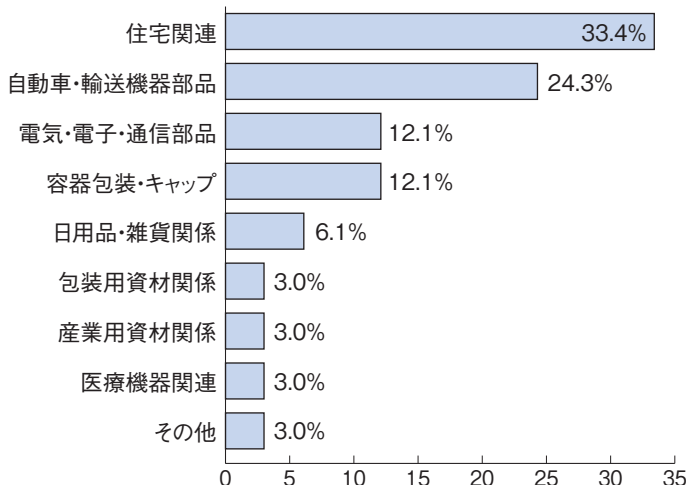
2023年1月～2023年3月/前年同期比

■ 増加・好転・上昇 ■ 変わらず ■ 減少・悪化・低下



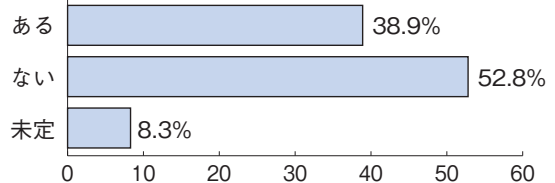
(36社回答)

[1] 売上(取扱い)商品の中で最もウエイトが高いのは?

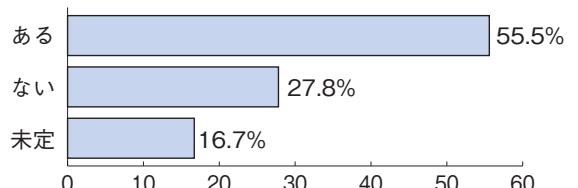


[2] 雇用について

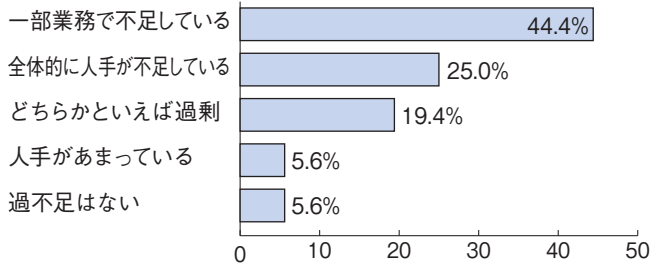
●2023年4月の新規学卒者採用予定



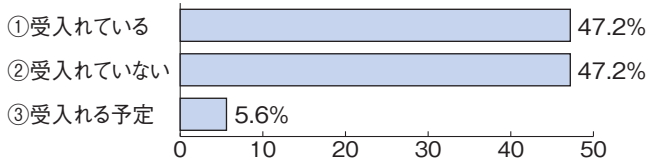
●2022年10月～2023年3月の中途採用実績・予定



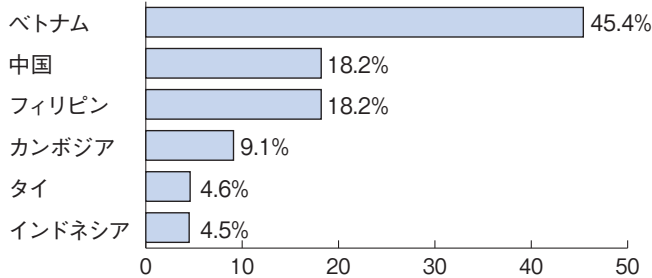
[3] 現在、貴社の人員の充足感について



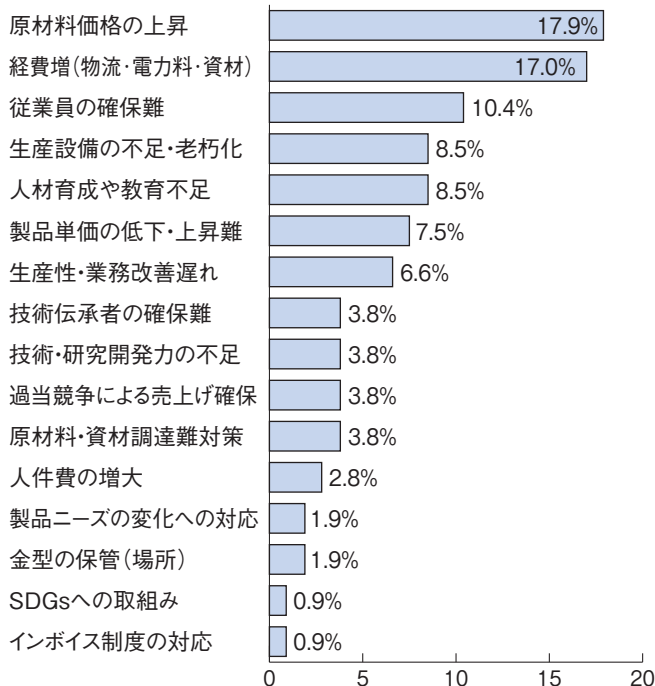
[4] 外国人実習生の受入状況について



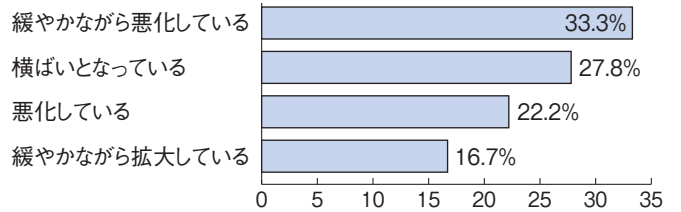
[5] 問[4]の①又は③の出身地は?



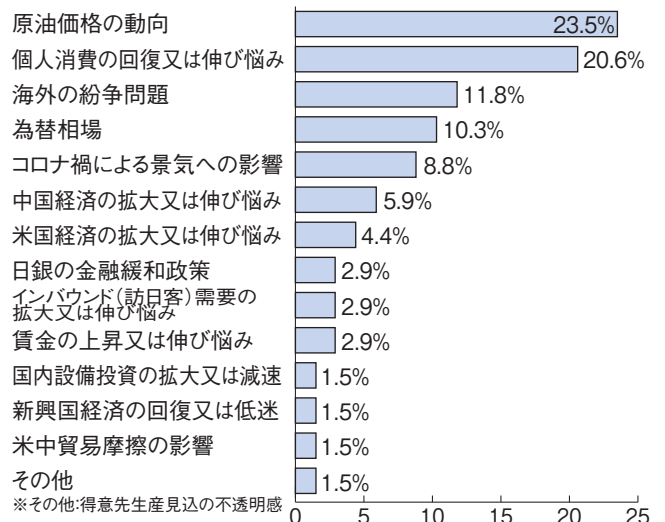
[6] 今季直面している経営上の問題点について (2022年10月～12月まで)



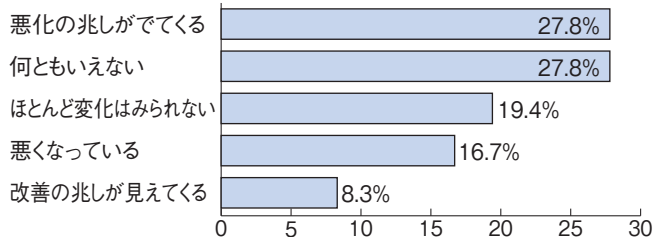
[7] 現在の国内景気をどのように認識されていますか? (前回の調査：2022年6月、7月と比較して)



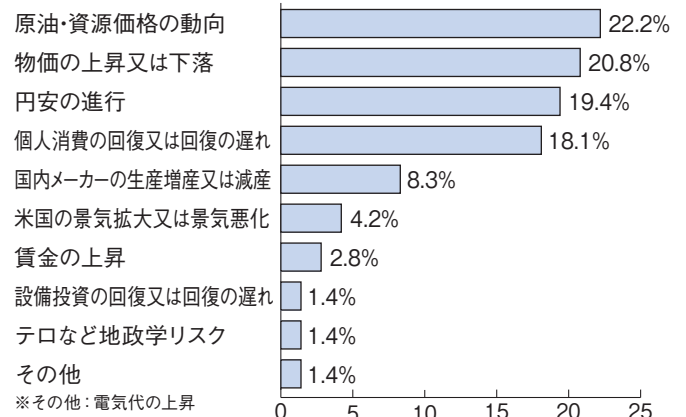
[8] 問[7]のそれぞれの要因について



[9] 今後の国内景気は、現在と比較して どうなると思いますか? (2022年3月頃)



[10] 問[9]のそれぞれの要因について



加工機械生産実績

金額：百万円

	合計		射出成形機										押出成形機				ブロー成形機	
			計		型締力100t未満		型締力100t以上200t未満		型締力200t以上500t未満		型締力500t以上		本体		付属装置		本体	
	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額
2016	13,650	196,557	11,702	141,377	3,697	23,898	4,418	39,287	2,841	41,733	746	36,459	411	23,606	887	10,658	650	20,916
2017	16,508	217,490	14,353	161,943	5,092	31,904	5,536	48,749	2,843	41,056	882	40,234	513	17,644	995	16,677	647	21,226
2018	17,031	222,194	14,950	173,817	5,409	35,315	5,506	49,008	3,248	47,091	787	42,403	500	16,213	916	12,965	665	19,199
2019	14,809	208,416	12,753	156,256	4,689	30,676	4,290	40,158	3,027	43,735	747	41,687	472	24,797	1,095	12,070	489	15,293
2020	11,429	179,653	9,837	121,989	3,266	21,931	3,632	34,095	2,476	37,392	463	28,571	382	30,909	744	9,890	466	16,865
2021	15,231	202,211	13,742	153,164	3,845	23,777	5,854	51,929	3,490	51,588	553	25,870	312	18,749	717	14,105	460	16,193
2022.5月	1,082	12,071	1,009	10,684	258	1,633	452	3,847	270	3,857	29	1,347	14	343	32	144	27	900
前年同月比%	89.2	84.4	91.1	90.5	93.1	99.1	87.9	82.5	97.8	92.3	70.7	102.4	56.0	50.6	84.2	44.4	64.3	60.4
2022.6月	1,413	17,685	1,256	13,088	380	2,418	538	4,763	309	4,624	29	1,283	24	494	98	2,738	35	1,365
前年同月比%	109.9	101.5	106.7	100.1	106.1	107.9	110.5	106.1	108.8	113.6	60.4	56.4	109.1	19.0	227.9	1,017.8	79.5	92.1
2022.7月	1,175	17,941	1,104	13,546	290	1,800	499	4,496	254	3,910	61	3,340	15	3,048	32	516	24	831
前年同月比%	90.5	104.9	92.6	96.8	82.9	79.2	100.0	106.5	85.5	83.8	132.6	117.9	71.4	281.7	80.0	105.5	52.2	53.8
2022.8月	1,222	21,669	1,072	12,602	239	1,508	511	4,622	271	3,885	51	2,587	26	2,614	97	5,579	27	874
前年同月比%	101.1	142.2	105.1	120.4	82.7	87.0	114.6	120.6	106.7	108.9	164.5	194.8	61.9	169.0	88.2	274.8	73.0	72.8
2022.9月	1,165	18,981	1,066	13,716	258	1,725	514	4,715	238	3,482	56	3,794	22	2,727	50	1,392	27	1,146
前年同月比%	99.1	119.2	99.8	114.2	88.1	103.3	111.0	110.8	90.2	86.1	116.7	185.8	78.6	275.7	108.7	84.9	79.4	89.7
2022.10月	1,196	18,888	1,074	12,670	261	1,733	502	4,570	247	3,683	64	2,684	17	1,087	86	4,404	19	727
前年同月比%	97.8	124.1	96.4	105.3	90.9	99.3	99.4	102.4	90.1	97.1	133.3	132.0	113.3	182.1	179.2	397.1	41.3	49.0

原料生産実績

単位：トン

	計	フェノール樹脂	ポリエチレン	ポリスチレン	ポリプロピレン	メタクリル樹脂	塩化ビニル樹脂	ポリカーボネート	ポリアセタール	PET樹脂	PBT樹脂	その他樹脂
2016	10,715,345	288,578	2,568,979	1,183,264	2,466,311	144,949	1,650,883	292,520	104,181	418,370	171,368	1,425,942
2017	10,560,134	301,939	2,654,815	1,240,813	2,505,540	154,919	1,705,921	310,179	115,184	0	110,121	1,460,703
2018	10,241,761	302,164	2,466,620	1,236,915	2,357,807	151,603	1,690,288	320,793	119,256	0	120,828	1,475,487
2019	10,100,761	288,752	2,447,909	1,172,580	2,439,862	142,949	1,732,545	297,505	100,698	0	114,513	1,363,448
2020	9,262,669	255,409	2,246,009	1,057,216	2,246,815	129,345	1,626,549	269,660	89,683	0	96,836	1,242,147
2021	9,926,985	295,795	2,451,642	1,074,185	2,463,136	138,994	1,625,347	280,922	120,315	0	117,093	1,359,556
2022.5月	770,864	21,134	202,938	81,980	174,528	11,299	129,667	22,316	12,706	0	9,968	104,328
前年同月比%	95.2	94.9	100.1	100.1	83.4	89.1	101.8	82.5	103.9	0.0	96.3	100.6
2022.6月	689,821	24,424	171,539	76,549	134,801	8,606	128,508	21,897	11,535	0	9,598	102,364
前年同月比%	96.9	91.3	97.3	107.2	90.1	84.1	99.9	98.1	118.2	0.0	86.0	97.2
2022.7月	777,611	22,535	219,935	73,909	175,713	11,421	129,112	16,874	11,746	0	10,053	106,313
前年同月比%	98.5	86.0	126.8	81.6	92.0	93.0	90.5	92.6	105.5	0.0	85.8	95.1
2022.8月	802,224	19,767	214,331	79,388	205,837	10,571	129,851	21,380	11,466	0	8,953	100,680
前年同月比%	95.4	91.9	111.0	83.0	93.6	121.8	92.1	88.0	98.2	0.0	79.3	88.7
2022.9月	737,999	22,904	165,991	67,566	190,241	10,264	131,075	26,647	9,615	0	7,341	106,355
前年同月比%	86.5	87.1	79.0	72.2	88.4	87.9	94.7	101.0	93.2	0.0	89.0	93.9
2022.10月	748,755	21,319	198,112	69,922	177,206	7,949	140,531	17,854	6,499	0	5,877	103,486
前年同月比%	88.0	82.3	94.7	84.7	76.5	73.4	91.5	119.9	162.3	0.0	122.2	91.0

製品生産実績

単位：トン

	計	フィルム	シート	板	合成皮革	パイプ	継手	機械部品①～③			日用品・雑貨	容器		建材	発泡製品	強化製品	その他	
								計	①輸送機械部品	②電気通信部品		③その他部品	中空成形容器					その他の容器
2016	5,659,988	2,237,187	219,915	113,163	56,952	387,232	44,136	645,925	483,702	112,949	49,274	298,382	485,244	298,216	293,869	251,038	73,983	254,746
2017	5,808,801	2,286,546	219,856	114,362	56,006	398,821	45,458	672,089	505,463	115,038	51,588	301,609	502,846	327,908	283,809	249,400	77,117	272,974
2018	5,883,291	2,311,711	215,415	119,513	58,439	394,465	44,892	683,616	518,568	114,134	50,914	301,071	510,028	357,973	274,138	251,866	72,080	288,084
2019	5,736,059	2,246,155	202,543	104,389	58,854	383,893	49,465	693,999	527,733	116,142	50,124	284,340	493,982	353,688	268,932	243,780	74,149	277,890
2020	5,501,464	2,171,309	203,796	95,316	44,157	361,926	45,120	657,996	512,442	101,466	44,088	305,603	466,197	328,443	241,979	243,864	67,819	267,939
2021	5,685,065	2,233,862	218,777	96,744	54,599	363,333	51,809	671,222	515,861	108,340	47,021	307,297	464,988	384,781	252,691	245,403	66,720	272,839
2022.5月	440,287	178,287	16,953	7,186	3,785	24,041	3,767	41,527	30,572	7,648	3,307	24,433	43,211	30,767	18,840	19,599	5,151	22,740
前年同月比%	97.7	98.4	99.6	90.1	89.0	84.6	98.9	89.3	88.2	91.7	93.8	98.0	103.2	102.5	98.2	103.0	110.3	105.6
2022.6月	497,734	192,697	18,818	7,975	4,315	34,013	4,869	55,308	42,048	9,313	3,947	27,001	46,454	33,876	21,509	20,396	5,896	24,607
前年同月比%	98.8	100.1	96.2	82.6	83.0	102.1	99.3	88.3	86.2	95.6	95.8	101.1	107.6	99.7	98.0	102.3	101.3	100.4
2022.7月	491,562	193,532	19,210	7,623	4,504	29,773	4,499	56,545	43,318	9,381	3,846	25,170	45,713	32,647	21,646	20,577	5,857	24,266
前年同月比%	97.8	99.2	101.9	85.7	90.1	93.0	101.9	90.9	90.0	94.3	94.2	95.1	107.2	96.6	98.2	95.4	99.8	100.8
2022.8月	422,519	161,508	16,377	6,503	3,855	23,332	3,953	48,896	37,683	7,789	3,424	23,147	42,601	27,610	18,571	18,568	5,465	22,133
前年同月比%	99.0	95.3	100.1	88.5	101.9	90.2	105.9	105.7	108.4	96.2	100.5	97.8	110.6	91.8	107.8	97.3	112.0	108.4
2022.9月	472,730	184,695	17,872	7,395	4,530	28,161	4,454	59,949	47,017	8,863	4,069	24,455	41,331	28,776	21,432	20,232	6,076	23,372
前年同月比%	99.3	95.9	96.5	92.9	100.1	83.5	89.7	131.3	141.9	100.4	110.1	97.5	109.5	88.1	98.7	95.1	99.9	98.7
2022.10月	462,747	179,238	15,817	7,356	4,500	31,021	4,313	56,946	44,112	8,792	4,042	25,002	39,567	28,386	21,560	20,749	5,899	22,393
前年同月比%	96.4	92.0	85.7	94.7	106.0	93.5	95.7	119.6	124.5	103.4	109.3	99.0	108.9	84.5	92.8	94.9	101.8	97.0

(経済産業省データ加工)

【会員の動き】

■代表者の変更（登録代表者）

芝浦機械株式会社関西支店
支店長代理 飯塚 章博
(前：山本 泰三)

タカラ産業株式会社富山工場
工場長 野口 茂幸
(前：南 雅之)

村上化学株式会社
支店長 遠藤 浩貴
(前：田中 隆二)

共創

父親の育児休業

2021年6月育児・介護休業法が改正され昨年2022年10月から出生時育児休業、いわゆる産後パパ育休が創設されました。今回の創設で、簡単に言うとこれまでの育児休業にプラスして産後8週以内に合計4週間までの取得が可能で、2回に分割することも可能というものです。

私たちの年代では、なかなか男性の育児休業と言われてもピンとこないのが正直なところですが見方を変えて、わが国の最大の課題と言ってもよい少子高齢化・人口減少の対策の一助になればと思います。もちろん直接的に影響を及ぼすまでにはならないまでも、男性側が積極的に家事・育児に参加し女性のキャリアアップにつながり経済的な面にも影響を及ぼし、出生率の低下を抑えるほうに寄与しないかと期待します。

このパパ育休ですが、世界からみると日本が遅れているようなイメージですが世界の国々と比べると日本はどのような位置づけなのでしょう。

レポート「Unicef Aer the world's richest countries family friendly?」によれば男性の育児休業中の給付金を比べてみますと最大限の給付が受けられる期間は日本は30週となっていますが、これは世界第1位の期間です。これは意外だと思われた方も多いのではないでしょ

うか。世界の国々をランキングで見ると、2位が韓国 17週、3位がポルトガル 12.5週、4位 スウェーデン 10.9週、5位 ルクセンブルク 10.4週、その他では、ドイツ 5.7週、フランス 5.6週、イギリス 0.4週、アメリカに至っては給付はありません。世界の国々に比べても思った以上に、日本の父親の育児休業給付が手厚いことがわかります。

一方、父親の育児休業の取得率はどうでしょうか。

日本は13.97%、この数字も意外と高いと思った方が多いのではないのでしょうか。世界の国々の取得率というと、データは2013年のものですが、フィンランド、スウェーデン、デンマークは70%をすでに超えています。ドイツは2016年で約34%だそうです。日本の取得率はまだまだ低いようで、政府は2025年までに30%を目標にしています。

このように父親の育児休業は日本ではまだまだ浸透していない印象ですが、この育休が浸透することで出生率の改善につながるのであれば大いに推進すべきだと思います。我々の住む富山のような地方は特に少子化、人口減少の問題がこれからますます大きくなっていくと思われま

す。この父親の育児休業取得も少子化問題を緩和する一助になってくれたらと思いますしさらなる経済的な援助もあわせて政府には期待したいところです。

編集委員 三光合成(株) 思田 幸二

《編集委員会》

編集委員長 門前 昌志 (阪神化成工業(株))
編集委員 谷田 雄彦 (株)タカギセイコー
〃 濱井 泉 (株)碓井製作所
〃 河内 猛 (株)リッチェル
〃 思田 幸二 (三光合成(株))
〃 上田 祐輔 (阪神化成工業(株))



富山県プラスチック工業会

(富山技術交流センター内)
〒930-0866 富山市高田529番地
TEL(076)442-0309 FAX(076)442-0310
URL <http://www.kenpla.jp> E-mail info@kenpla.jp

編集後記

会報No.50号発刊の特集編集において会報経緯を調べると、時節における情報発信や今までの事業活動を知ることが出来ました。編集に関われた方々や、会員皆様の協力があったからこそ成り立っていることを痛感しました。今後も、読み続けられていくような会報を目指して、取組んでいきます。

今年度もまだまだ新型コロナの影響が色濃く、事業活動においても、視察・懇親会の中止や人との距離を取った配置等、注意することが多く苦慮しました。今までFace to Faceによるコミュニケーションが当たり前であったことが、懐かしくなります。今後、Withコロナの時代とはなりますが、できるだけ意思疎通を取れる事業となればと思います。皆さまのご協力をお願い致します。

今回、印刷経費増やWeb・ホームページ活用もあり、会報配布部数を見直しましたこと、ご協力の程宜しくお祈りいたします。
事務局 安田(記)